

## 永峰寺 ZenHaus (ZEN・QIGONG・TCM・KULTUR) クリニック訪問報告

ミュンヘンに来て一カ月の頃、セイリン株式会社ミュンヘン駐在員の北川さんと薔さんからのご紹介で、ドイツでハイルプラクティカーのライセンスを習得すべく勉強中の長江さんと知り合いになりました。長江さんは上海中医薬大学卒業の経歴があり、本場中国で中国伝統医学を学んだ方です。今回は長江さんのご紹介で、ミュンヘン市内で開業なされているハイルプラクティカーの独峰先生のクリニックを訪問してきました。

クリニックはミュンヘン郊外の静かな新興住宅地の一面にあります（図 1）。外庭もとてもきれいで（図 2）、入口には大きく永峰寺とお寺の名前がありました。



（図 1：クリニック正面）



（図 2：外庭）



（図 3：受付）

日本のお寺に似た落ち着いた雰囲気建物で、中に入ると受付（図 3）に奥様がいらっしゃいました。奥様は日本人で、クリニックで独峰先生と一緒に働かれているそうです。独峰先生も日本語が堪能で、先生の御経歴やクリニックの設備など詳しく教えていただきました。

先生は過去 8 年間程、中国と日本で中国伝統医学・鍼治療・禅の修行をなされたとのこと（図 4）。中国では **Academy of Traditional Chinese Medicine**、日本では京都の気賀鍼灸院で修行され、禅は滋賀県の永源寺で学ばれた経歴をお持ちで、ドイツで治療を始めて 18 年程になるそうです。その間も中国、日本に足を運んで研鑽を積まれていたとのことでした。最近では **Technical University of Munich** の関連病院で中国伝統医学の講義もなさっており、診療以外にも気功の指導もされていらっしゃるとのこと、とてもお忙しいスケジュールの中お時間をいただきました。



（図 4：Dr. Dokuho）

こちらのクリニックは今年の4月にできたばかりで、独峰先生のアイデアが詰まったとても印象的なクリニックです。患者層は片頭痛、不眠症、慢性疲労症候群、過敏性腸症候群、免疫力低下、脳梗塞・脳出血後遺症、各種関節痛、花粉症、生理痛、癌治療のサポートなど様々とのことでした。診療は予約制で、初診に約1時間30分、再診でも1時間をかけて診察・治療なされるとのことでした。一日の診療は平均15人とのことでした。治療には気功療法・鍼治療・灸治療・漢方薬治療・心身療法・五行による治療などがあり、患者様の希望や対象疾患により選択します。漢方薬は、煎じ薬・エキス顆粒製剤・ドロップ製剤があり、これも希望で選択できるそうです。原則的に初診の費用は160 Euro、再診からは80 Euroになり、保険適応も可能とのことでした。

実際に自分も漢方薬による治療の流れを体験してきました。体質にかかわる問診と病歴、舌診、脈診等を総合して弁証をする流れは、中国伝統医学の弁証の流れに通じるものでした。漢方薬はエキス剤を選択しました。先生が各種エキスハーブの組み合わせを決め、ミュンヘン市内にあるAPOTHEKE（薬局）に処方箋を送り、後日出来上がったらいいただきにあがるという形でした（後述）。

その他、施設も見学させていただきました。地下にはトレーニングルーム様の広い場所があり（図5）、その隣には禅を行う部屋がありました（図6）。この場所で、気功療法や禅のトレーニングを行うとのことでした。



（図5：トレーニングルーム）



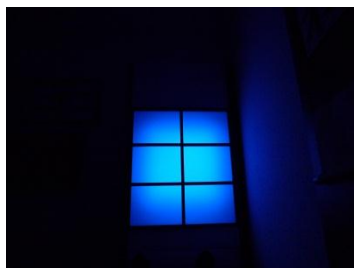
（図6：禅室）

鍼・灸・推拿治療は個室になっている図7の部屋で行われます。この治療室は五行理論に基づいて設計されており、五行に関係する色・音・振動・香りなどを弁証に合わせて選択します。例えば、青色は水のエレメントに属し、腎臓を音と振動で刺激させるようなシステムになっています。色・音・振動・香りで患者様を包み込み、治療が進んでいきます（図8）。通常日本で行われる鍼灸治療では、置鍼時間は仰臥位もしくは腹臥位で抜針まで時間を待つだけのことが多いかと思いますが、この部屋で治療を受けると非常に心地よいリラックス状態に導かれます。このリラックスした状態が、鍼・灸・推拿治療による気のコントロールをより効果的にするのだと感じました。さらに、奥様が中心となって行っている allsense（現：Kawashima）のブランドの商品も興味深いものがありました（図9）。クリニックでの治療の後、帰宅後も自宅でも手軽にお茶・アロマキャンドル・メガネなどを使用し、継続してリラックスできるアイテムがいくつも

ありました。クリニックで使用されている音・振動・香りの治療室自体も相談次第で購入可能とのことでした。



(図7：治療室)



(図8：置鍼中)



(図9：allsenseのセット)

私自身も、中国伝統医学を学び始めたころから、五行論に関係した五感の刺激を治療に取り入れたいと思っていましたので、ドイツでその理想形に出会うとは思ってもみませんでした。患者様の症状の改善のため、環境も取り入れてシステムティックに治療していくという考え方には非常に共感するところがあります。中国伝統医学—禅—日本伝統医学に共通した考え方を理解され、治療を裏付ける深く広い知識をもつ先生であるからこそ可能になった形態だと思います。

お忙しい中、独峰先生、奥様からたくさんの情報をいただきまして本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

(文責：高山真)

## APOTHEKE AM ODEONSPLATZ 見学報告

翌々日に APOTHEKE AM ODEONSPLATZ (オデオン広場の薬局) から電話連絡があり、独峰先生に処方していただいた漢方薬をいただきに、Odeonsplatz に向かいました。Odeonsplatz はミュンヘン市庁舎の Rathaus がある Marienplatz の隣の広場で、Marienplatz から Odeonsplatz へ続く道はこの時期、クリスマスマーケットでにぎわっています。地下鉄 U6 で駅まで行くと、すぐ目の前に薬局がありました。(APOTHEKE は薬局、Platz は広場、U6 は地下鉄の路線 6 の意味です。)



(図 1 : APOTHEKE AM ODEONSPLATZ)



(図 2 : Odeonsplatz)



(図 3 : クリスマスマーケット)

中に入り、薬剤師さんに自分の名前を告げて漢方薬の購入となります。今回は私から先生にエキス顆粒の処方をお願いしていました。処方箋は図 4 のようになっています、単味のエキス顆粒の量が各々記載され、それを一回にスプーン一杯分をお湯に溶かして食前に内服、一日 3 回・・・と記載されていました。値段は 50Euro 程度でした。これまでにたくさんミュンヘン市内の APOTHEKE をまわりましたが、漢方薬を取り扱う薬局は初めてでしたので、薬局の方に内部の見学をしてみました。するとニコリ、店内から地下まで案内してくれました。

Dokuho J. Meindl Herzkränker Udenstrasse 22, 80333 Dornach Tel 089-525-8360 Fax: 089-962-007-53	
Rp. Name: Herr Shen Takayama	24.11.2010
覆盆子 Yi Yi Ren (Semen Coicis)	20 g
蓮子 Lian Zi (Semen Nelumbinis)	14 g
山藥 Shan Yao (Radix Dioscoreae)	14 g
白朮 Bai Zhu (Rhizoma Atractylodes Macrocephala)	10 g
茯苓 Fu Ling (Poria)	10 g
人參 Ren Shen (Radix Ginseng)	8 g
白朮 Bai Zhu (Rhizoma Atractylodes Macrocephala)	10 g
桂枝 Gui Zhi (Radix Platycodon)	8 g
炙甘草 Zhi Gan Cao (Radix Glycyrrhizae)	8 g
砂仁 Sha Ren (Fructus Amomi)	8 g
熟地黄 Shu Di Huang (Re. Rehmanniae Preparata)	18 g
Granulat	
3 x täglichem Teeöffel rüchtem mit Wasser einnehmen.	
Dokuho J. Meindl Herzkränker Udenstrasse 22, 80333 Dornach Tel 089-525-8360 Fax: 089-962-007-53	

(図 4 : 処方箋)



(図 5 : エキス顆粒)



(図 6 : 生薬→分別・計測)

ミュンヘンには 10 店舗程度の漢方薬薬局があり、こちらはそのなかでも品揃えも豊富で本格的に漢方薬処方を行っている薬局とのことです。漢方薬の処方是一日平均 40 人程度とのことでしたが、フランクフルトや隣国のオーストリアからも処方箋が来るともあるそうです。処方箋は医師もしくはハイルプラクティカーの処方箋にのっって行



われ、処方箋なしで個人に漢方薬を売ることはないそうです。購入はまず自分で全額支払い、後から自分が入っている保険会社に領収書を送り、認められればある程度金額が戻るそうです。戻る金額や保険適応などは保険の種類により異なるため、一律には言えないとのことでした。こちらで取り扱う漢方薬は、生薬・エキス剤の両方でした。生薬は基本的に中国から輸入したものを使用し、日本の煎じ薬と同じように数日分を処方し自宅で患者様自身が煎じます。また、こちらの薬局では煎じるサービスも行っており、図7のように薬局で煎じたものを瓶詰にして患者様に手渡しすることも行っていました（図8）。また、エキス剤は日本のものとは異なり、日本のように既に方剤としてパックになっているものではなく、単味のエキス顆粒を処方箋記載の容量に合わせて各々を一つにまとめ容器に入れるようになっていました。苦くて飲みにくい顆粒の場合は、図9のようにカプセルに入れるサービスも行っていました（図9）。こちらのエキス顆粒は主に台湾からの輸入のものを使用していました。全部で250種類程度の生薬、エキス顆粒を取り扱っているとのこと、様々な要望にできる限りこたえられるようにしていました（図10）。しかし、虫類に限っては余り置いていないそうです。



(図7：煎じのサービス)



(図8：煎じ薬の瓶詰)



(図9：エキス剤のカプセル)



(図10：単味エキス剤多数)

薬局の皆様方、お忙しい中、漢方薬局の事情や漢方薬の内容、処方箋の使用など詳しくご説明いただきましてありがとうございました。

(文責：高山真)